

■ 工作機械事業

Q. 足元の放電加工機のリードタイムの状況について

A. リードタイムは通常2～3か月程度であるが、足元ではサプライチェーン混乱の影響等により4～6か月程度に延びている。

Q. 値上げの状況、値上げ幅や時期、地域差について

A. 2021年秋頃から欧米が先行して数%～10%程度値上げを実施。
日本では2022年2月受注分より数%～10%程度値上げを実施。
価格に敏感な中華圏、アジアに関しては競争環境も踏まえたうえで慎重に進めている。

Q. アフターサービスの実績と目標について

A. 詳細はお示しできないが、国内のアフターサービス加入率は満足いく状況ではない。
スポットサービスから地盤を固め、定期的に参加いただけるよう取り組みを強化する。
米国では「Sodick Care+」というサービスを展開し、他地域に先駆けて進んでいる。
中国はアフターサービスの売上が低い状況のため、今後強化してまいりたい。

Q. 下期計画のリスクファクターについて

A. 全世界的なインフレ等の影響によりお客様の設備投資の意思決定期間が延びている懸念のほか、
中国に関しては米中関係を中心とした地政学的リスクやゼロコロナ政策により物流が停滞するリスクもあり、
短期的な懸念はある。
一方で来期以降の中長期的な見通しはEV関係の需要や、欧米では航空宇宙、医療関係の需要が期待できる。

産業機械事業

Q. 2022年下期から来期にかけての見通しについて

A. 今後も高付加価値の射出成形機の需要は増加することを期待。EVを中心とした次世代自動車の車載部品関係で当社の小型高性能な射出成形機が、シリコン等の素材を使ったインサート成形で高い性能を有しているため、日本や米国、中華圏、アジア圏において堅調に推移していくと考えている。スマホのレンズ関係は低調であるものの、中華圏ではスマホレンズ関係のお客様が医療関係のレンズにも進出する動きがある模様。下期から来期にかけてハイエンド機の需要が期待できる。

その他

Q. 中国のロックダウンによる営業活動への影響について

A. 上海では2か月程度のロックダウンにより上海の販売子会社事務所は閉鎖となったが、受注活動はWEB商談により比較的順調に行うことができたため影響は少なかった。しかし、物流関係が停滞したため、機械の出荷・据付等で影響あり。